

独創性生む“出会い”

大阪では、中小企業とデザイナーやデザイン事務所を結び付けようという試みがさまざまな形で行われている。コスト削減など価格競争では大手に太刀打ちできない中小企業の製品でも、デザインを重視することで付加価値のある独創的な商品にすることができるところからだ。

■新たな感性

6月末に「Laraca(ラルカ)」というブランドの女性用アクセサリー収納ケースが発売された。カラフルな半透明のプラスチックでシカの角やコーヒーカープ、逆さにおいた傘などをかたどっている。室内装飾品としても使える。

発売元は衣服用ハンガーを手がけるシンコハンガー(大阪市生野区)だ。ハンガーは中国製品などの流入で国内メーカーの苦戦が続いていた。「若い女性向けに付加価値の高い製品が必要だ」と考えていた時に、大阪市の外郭団体、大阪産業創造館によるデザイナー紹介事業に参加し、ラルカの誕生につながった。

産創館の事業は、応募した企業1社につき3人のデザイナーを紹介し、製品の基本発想や図面、スケッチを提案説明させる。企業は3人の中から採用したい製

デザイナー仲介成果



3月に大阪産業創造館で行われた「デザインビジネスマッチング展」(大阪市中心区本町で)

品案を選ぶ。著名なデザイナーに製品のデザインを依頼すると巨額の費用がかかるが、この事業でメーカーが払うのは30万円だけだ。企画案が採用されたデザイナーが20万円を、他の2人のデザイナーが5万円ずつ受け取る。

部の西平佳隆さん(43)は「当社にはこれまでになかった製品。新たな感性を持つデザイナーとの出会いがなければ作れなかった」と言う。

東で開かれた高級雑貨やインテリアの展示会「インテリアライフスタイル展」にラルカを出品したところ、バイヤーから高い評価を受けた。発売後もこれまで取引のなかった専門店を含め、問い合わせが相次いでいる。

■相談会

ブログの活用も

シンコハンガー以外にも3社が同じ事業を利用して

異分野交流 広がる可能性

新製品の開発を進めているほか、産創館ではデザインに関する悩みを抱えた中小企業などからの相談に応じる「デザインビジネスマッチング展」を毎年3月に開いている。今年は、米マイクロソフトのゲーム機「Xbox360」をデザインした村田智明さんも、デザイナーとして参加し、相談に応じた。この相談会がきっかけとなって商品開発を進めている企業も多い。

インターネットを活用し、中小企業にデザイナーを仲介する事業もある。大阪府産業デザインセンター(OIDC)は4月、「ビジネスマッチングブログ」と名付けたブログを開設した。会員登録したデザイナーは、自分の持ち味やこれまで手がけた商品などをブログで発信することができ、会員のメーカーも、会員登録したデザイナーの得意分野などを知ることが可能だ。

ブログ上で会員同士が「こんな商品を作りたい」などの意見交換ができる仕組みもある。

6月までにメーカーやデザイナー事務所など計70社が登録し、1日に200回以上閲覧されている。5月には、会員のカラーコーディネートが、自分の仕事を

PRするホームページの制作を堺市のデザイナーに委託する商談がまとまるなど具体的な成果が生まれた。

■中小企業に機運

関西の中小企業は、「技術を持ちながら、デザイン力の不足で販路を拡大できずにいる」(近畿経済産業局)という側面が強かった。一方デザイナーの面では、大阪のデザイン事務所は千数百社あるとみられるが、従来の顧客だった関西の大手企業で商品企画部門を東京に移す動きが相次いでおり、新規顧客の開拓が急務になっている。

ブログを運営するOIDCの担当者は、「デザイナーはもともと受注型産業だが、提案型への変革が迫られている。工業製品、ファッションなど異分野のデザイナーがブログを通じて交流を進めれば、新たなものを生み出せる可能性が広がる」と指摘する。

最近のこうしたさまざまな動きについて、産創館でデザイン振興を担当する釜田聡・シニアプランナーは「景気の回復で、これまでは苦しんでいた中小企業にも外部の力を借りて新たな製品を作ろうという機運が高まってきた」と話している。

大阪発刊

55周年

読売新聞

第30回

読売関西フォーラム